

## 49 衛生材料・滅菌器材の「在庫管理一元化」と手術室業務の見直し

中央材料室・手術室師長 井草良子

田村玉美

### 1. はじめに

看護部では平成 17 年度からより質の高い看護を提供するため、看護用品や衛生材料の物品管理に費やす時間を患者ケアにまわせるよう検討を開始した。平成 18 年には中央材料室に全ての物品を集約し、衛生材料・滅菌器材は定数カート交換方式で補充する方法を導入した。同時に衛生材料の見直しを行い、手術室の業務改善を行ったので報告する。

### 2. 現状の問題点

- ①職員の物品に対するコスト意識が低く、院内の総在庫数の把握が困難であった。
- ②各科・各フロアが独自で購入伺いを提出しているため購入ルートが様々で無駄、ムラ、無理があった。
- ③各フロアは、衛生材料・滅菌器材を定数以上に保管し収納が困難となり処置室が狭くなっていた。
- ④いつでも使えるように包交車は衛生材料を満載していたが、包交車は交差感染の温床となる研究があり見直しが必要だった。
- ⑤手術器械のセット組は、手術室と中央材料室が離れているため業務が煩雑であった。

### 3. 取り組み方法

- ①物品管理の窓口を中央材料室（師長）とし、台帳管理を徹底した。
- ②カート方式導入に伴い各フロアは定数表の見直しを行った。
- ③カートの容量・形態を決定。
- ④ディスポ製品の導入による中央材料室業務の見直し。
- ⑤中央材料室の業務の見直しに伴い手術室業務の見直し。

### 4. 結果

- ①医療材料・衛生材料・看護用品の購入窓口を中央材料室に一本化し、中央材料室はコンピューターソフトを購入し台帳管理を徹底した結果、中央材料室は、物品の動きが見え、在庫管理がしやすくなり、病棟の不用在庫が無くなった。
- ②衛生材料・滅菌器材の定数化とカート方式導入により、中央材料室の委託職員が毎日衛生材料・滅菌器材の人力集配を行い、各フロアは臨時で必要なものを伝票で依頼する事にした。その結果、処置室は、整理された。
- ③各フロアは包交車の感染防止に取り組み、コンパクトな包交車になった。
- ④カート方式の導入で毎日カートの中は補充されているため職員の意識が抱え込む事から変換し使用しないものはすぐに返却するようになった。
- ⑤経済的視点でディスポ製品の導入を検討し、導入にあたっては「中央材料室通信」を配信した。その結果、視覚的に確認し共通認識できるようになった。
- ⑥衛生材料を見直し業務の削減ができたことから手術室看護師の行っていた手術器械セット組を中央材料室に移行した。

### 5. 課題

以上は、看護部内の取り組みである。これらの取り組みを通して、物品の新規採用などは各部門からの請求伺いの提出によって動いているが、各職種間で共有する物品では、意見の調整に手間取り、かつ意見の違いから摩擦が生じることもある。他施設の管理方法を聞くと用途・品質・使用勝手・同等品の有無などを委員会として検討しているという。安全、迅速、経済的に選定するため委員会の設置が望まれる。